

THE FIRST INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON NEW GLASS

第1回ニューガラス国際シンポジウム 盛会に終始



第1回ニューガラス国際シンポジウムは、昭和62年12月1日、2日の両日に亘って、東京一つ橋の如水会館で開催されました。

シンポジウムは、準備期間が短かったにもかかわらず、ご後援いただいた通商産業省、日本セラミックス協会、日本自転車振興会、実行委員会委員長を勤めていただいた作花京大教授をはじめ、関係各位のなみなみならぬお力添えによって、また、会員の皆様にも積極的なご参加をいただいたことによって、当初見込みを上回る300名を超える参加者を得て、盛大な催しとすることことができました。

開会に当たって、鈴木会長は「21世紀の先端産業に新素材の果たす役割の大きいこと」を、通商産業省生活産業局鎌田局長は「国際交流と日本の役割の重要性」を強調されましたが、今回のシンポジウムは、これらのご挨拶を踏まえた、まことに時宜を得た催しであったと考えられます。

シンポジウムのプログラムは別表に掲げたとおりですが、各セッション共極めて質の高い内容であり、活発な質疑応答が行われ、時間の不足が痛感されました。

しかし、これらのご発表により、ニューガラスにおける現在及び将来の技術動向について多くの示唆が得られたものと思われます。

第1日目のセッション終了後、同じ如水会館のパーティー会場に場所を移して、講演者をはじめ多数の方々のご参加を得てバンケットが開かれました。

パンケットは、鈴木会長の開会挨拶のあと、7月まで世話ををお願いしていた島さんの発声で乾杯、お忙しい中を駆付けていただいた工業技術院飯塚院長がご挨拶の中で「アモルファスの時代」を強調され、大変盛上がったものとなりました。

シンポジウムは、2日間の日程を盛会のうちに終始し、古本副会長の閉会挨拶で幕を閉じました。

はじめにも述べたように、短期間に準備したシンポジウムであったにもかかわらず、多くの成果が得られたことに関し、あらためて関係各位に厚く御礼申上げます。

なお、シンポジウムの発表内容に関しては、会場でお配りした「アブストラクト集」のほか、詳細な内容を含む「プロシーディングス(論文集)」発行の準備をすすめています。

第1回ニューガラス国際シンポジウム プログラム

1251 1 06

- オープニング・セレモニー
 - 開会挨拶 鈴木 哲夫 (株)ニューガラスフォーラム会長
来賓挨拶 錦田 吉郎 通産省生活産業局長
 - セッション I ニューガラスの研究開発動向
 - (1)日本におけるニューガラスの研究開発
 - (2)米国におけるニューガラスの研究開発
 - セッション II 新しい生成技術・成形技術によるニューガラス(1)
 - (1)ゾルゲル法によるシリカファイバー
 - (2)ゾルゲル法によるニューガラス
 - (3)新しいシリカー有機物ハイブリッド機能材料
 - セッション III 新しい生成技術・成形技術によるニューガラス(2)
 - (1)アモルファス機能性薄膜の製法と応用 北島
 - (2)ガラス表面の応用
 - (3)新成形技術によるニューガラス製品
 - 懇親パーティー

12月2日(水)

- セッション IV 光機能性ニューガラス(1)
 - (1)通信分野におけるニューガラス
 - (2)次世代光通信用ガラスファイバー
 - (3)マイクロオプティクス用ニューガラスとその応用
 - セッション V 光機能性ニューガラス(2)
 - (1)ガラスレーザーの現状と展望
 - (2)相変化型光記録材料——カルコゲナイトガラス薄膜——
 - セッション VI 化学・生体機能・機械機能ニューガラス
 - (1)多孔質ガラスとバイオテクノロジーへの応用 J.Petzoldt, R.Schnabel, W.Kiefer (Schott)
 - (2)生医学材料としてのガラス及び結晶化ガラス
 - (3)鎖状構造珪酸塩をベースとした高弾性結晶化ガラス
 - 閉会挨拶 古本 次郎 (徳)ニューガラスフォーラム副会長

